

せんとうき

館報 尖頭器



「尖頭器」とは主に旧石器時代に使われた狩猟具です

旧石器ハテナ館

史跡田名向原遺跡

旧石器時代学習館

TEL 042 - 777 - 6371

平成 22 年 8 月 5 日

【第 6 号】

夏の人気イベント

やせがわ 八瀬川探検を開催

夏休みが始まったばかりの7月24日に、ハテナ館の近くを流れる八瀬川を探検し、魚とりを体験するイベントを開催しました。とても暑い日でしたが、川の中は冷たくて気持ち良かったようで、みんな元気に探検を終えることができました。



八瀬川探検のようす



網で魚とり体験



釣り体験

地元産のおいしいトウモロコシをどうぞ
～つなぐ会による事業～

このイベントに併せて「ハテナ館と地域をつなぐ会」によるトウモロコシの提供事業を実施しました。甘くておいしいとかなり好評でした。



夏休み平日教室開放【8月9～25日】



8月

夏休みの課題、学習等で利用してもらえよう、平日に実習・講習室を開放します。時間は午前10時～午後4時まで。開放日については右の開放予定表をご覧ください。開放予定が変更となる可能性もありますので、詳細につきましては旧石器ハテナ館までお問い合わせください。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

ナイトミュージアム in 田名向原

「夜の博物館ってどんな感じなんだろう？」そんな疑問に答えるべく、旧石器ハテナ館と田名向原遺跡公園を夜間開放します。肝試しやクイズにチャレンジすると参加賞がもらえるので、怖いもの知らずの子は1人で、不安な子は友だちを誘って参加して下さい。もちろん保護者同伴でも大丈夫です。

【日時】 8月21日(土) 19:00～20:30

※受付は20:15まで

【場所】 旧石器ハテナ館

【参加料】 無料

【対象】 どなたでも



身近な体験や経験を通して実践力のある子を育てたい

学習指導員 大塚 靖夫

6月は不安定な天候の日々が続きましたが、当日は朝から良い天気にも恵まれました。申し込みも多く定員数を越えたためにお断わりをするような状況でした。事情があって欠席された方もいられましたが、幼稚園児から6年生の児童迄22名と保護者で約50名程になりました。講習室で「旧石器時代と縄文時代の環境の変化」や「狩猟具の違い」等についての話しの後、いよいよ「弓と矢」作りにチャレンジです。指導員が一連の作業工程の見本を見せてから始めました。

製作の流れは、①弓に使用する真竹を金ヤスリできれいにする。②弦を取り付ける部分に穴をあける。③矢羽を作り自分で色を塗る。④矢を作る。⑤弦を弓に張る です。矢羽に色を塗る場面では、とても楽しそうでした。カラフルなものや自分の発想を生かしたもの等、それぞれに独創的なものでした。



←それぞれが自分の好きな色をぬって個性的な矢羽ができました。

いよいよ、実際に試射です。的はダンボールで作られたシカやイノシシです。安全面の注意や試射の方法を知らせ、右手に矢を、左手に弓を持って全員で「エイエイオー！」と大きな声で氣勢をあげてから始めました。的迄は5mの距離です。子ども達の目は真剣です。

今日の最高のイベントは「チャレンジ」大会です。大会の優勝賞品は黒曜石とシカ角です。ダンボールの的で十分練習してから、チャレンジです。弓矢の体験をしたことがない子もいましたが、だんだん慣れてきて的に当たるようになりました。お父さん、お母さん方の声援にも力が入ります。練習を終えた人から得点のチャレンジです。的は3種類です。20点、10点、5点で、チャレンジは一人3回出来ます。足を開いて、弓の弦に矢をつがえて、力一杯引いて離します。得点の的に当たった時の喜びの歓声と拍手には大いに感動しました。

チャレンジの結果は、中央小学校5年生の杉浦智樹さ

んが見事に優勝しました。講習室で感想発表と賞品の贈呈をしました。子ども達は、笑いながら「とても楽しかった」とか「弓矢を初めてやって、すごく嬉しかった」等の声が聞かれました。

私たちは、この日のために何度か話し合いや準備をして来ました。子ども達に興味を持って、楽しんでもらえるあり方を探りました。弓や矢に適した材料を選んだり、手に入れる方法を考えました。今回の弓矢の体験を通して、子ども達で出来ることはなるべくやらせたいと考えました。それは、作る関わりの中で愛着心が生まれ、実践する力や自己表現力が育つからです。子ども達の年令差はありましたが、作業の中でたとえ失敗があっても、何度かくり返すうちに「もっとやってみたい」といった気持ちが育つものと考えたからです。自分で作った弓矢はきっと大切に思うものと思います。私たち指導員は、どのような「仕掛け」作りをすれば、子ども達が目を輝かせながら、力一杯の活動が出来るだろうかとこの事をいつも考え、将来ある子ども達に大いに期待して、これからも取り組んでいきたいと思えます。



↑ダンボール製のシカやイノシシに矢を放つ練習です。慣れてくると、何度も的に当たるようになりました。



←チャレンジ大会では、子どもから緊張感と的に集中している様子が伝わってきました。